

臨床研修医活動日記 2026年6月

6月10日(水) 4月に静脈留置および採血手技の研修を実施しましたが、今回、採血練習用キットを購入したので、静脈留置および採血手技に関する実践的研修を実施しました。

模擬腕(IVパッド)を用いた反復練習により、穿刺の基本操作、逆血確認、針の持ち方や刺入角度の調整といった基礎技術の習得を図り、看護師からは物品管理や標準手順整備など改善に向けた具体的行動項目が示されました。

6月16日(火) 小笠原副院長による「コミュニケーション」をテーマとした総合講義を実施しました。本講義では、インフォームド・コンセント(説明と同意)を基礎として、患者の理解と納得、自発的な意思決定を尊重する医療の重要性について学びました。また、一方的な説明にとどまらず、患者と医療者が情報を共有しともに意思決定を行う Shared Decision Making (SDM) や、将来の医療・ケアについて話し合う Advance Care Planning (ACP) への発展的な考え方も紹介されました。さらに、傾聴や共感といった基本的なスキルに加え、悪い知らせを伝える際の SPIKES や感情に寄り添う NURSE などの具体的手法について理解を深めました。本研修を通じて、患者・家族との信頼関係を築くコミュニケーションが医療の基盤であることを再認識する機会となりました。

刺入練習の反復を優先的に



今回のモデルは素材・機種
の制約で拡大性が低く「血
管の表面しか見えない」状
況が生じ、次年度機器更新
に期待か？
副院長 がっかり！



医療におけるコミュニケーションと倫理を基盤に、インフォームド・コンセント（IC）、共有意思決定（SDM）、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、緩和ケアの現代的な位置づけ、そして悪い知らせを伝える実践フレーム（SPIKES）、感情対応（NURSE）、治療目標合意（REMAP）までを体系的に解説していただきました



診断時点から全医療に緩和ケアが
通底

心身の苦痛は発症・診断から始まり、
癌治療（手術・化学療法・放射線）
はその中に一時的に入ると
解説

研修医の理解も一層深まりました

